

職務経歴書

令和 6年 11月 20日 現在

氏名: 藤井 健人

■キャリアサマリ

5名程度の小規模なWeb制作会社でプログラマーとしてキャリアをスタートし、複数のプロジェクトに参画。その後、10名程度のアーリーステージベンチャーからメガベンチャーまで、幅広い規模の企業で勤務。その過程で、フロントエンド開発、バックエンド開発、SRE (Site Reliability Engineering)、データマネジメント、プロジェクトマネジメントなど、多岐にわたる業務を担当。

■得意とする分野・スキル

アジャイル開発を専門とし、特に自動テストの整備やクラウドインフラを活用した自動化を通じて、DevOpsを積極的に実践。これにより、サービスの安定稼働を確保しつつ、ビジネス環境の変化に迅速に対応できるシステムを構築する。また、スクラム手法を導入し、チーム開発におけるムリ・ムラ・ムダを削減することで、開発効率向上と品質安定化を実現する。

分類	名称	実務経験	詳細
担当業務	要件定義	10年	チームリーダー/メンバーとして顧客とのやり取り経験あり。
	基本設計	10年	
	詳細設計	10年	
	実装	10年	
	テスト	10年	
	運用保守	10年	
	macOS	10年	通常使用に問題なしで、指導も可能
言語	HTML / CSS	5年	一人称で作業可能。レビュー可能。
	Ruby	10年	一人称で作業可能。レビュー可能。 プライベートでRubyライブラリを公開した経験あり。
	JavaScript / TypeScript	6年	一人称で作業可能。レビュー可能。
	Python	5年	一人称で作業可能。レビュー可能。
	Java	1年	調べながらであれば作業可能。 プライベートでJavaライブラリを公開した経験あり。
	PHP	10ヶ月	調べながらであれば作業可能。
フレームワーク	Ruby on Rails	9年	一人称で作業可能。レビュー可能。
	React / Next.js / NestJS	3年	一人称で作業可能。レビュー可能。 プライベートを含めれば5年。
	Scrapy	5年	一人称で作業可能。レビュー可能。

その他	SQL(MySQL/PostgreSQL)	9年	パフォーマンスチューニングまで対応できる。
-----	-----------------------	----	-----------------------

	AWS / GCP	7年	通常使用に問題なし。 IaCによる管理体制の構築も可能。
	StatusCake / New Relic / Datadog / Opsgenie	7年	通常使用に問題なし。 監視・オンコール体制の構築経験あり。
	Kubernetes	1年	プライベートで1年。 通常使用に問題なし。
	Terraform	6年	一人称で作業可能。レビュー可能。 GitOpsによる自動化を推進できる。
	CircleCI / GitHub Actions	9年	一人称で作業可能。レビュー可能。 GitOpsによる自動化を推進できる。
	Ansible	6年	一人称で作業可能。レビュー可能。 GitOpsによる自動化を推進できる。
	Docker	7年	0からDockerfileを構築、配布可能。
	Git / GitHub	10年	通常使用に問題なし、指導も可能。
	Jira	4年	通常使用に問題なし、指導も可能。
	Figma	1年	調べながらであれば作業可能。

■職務経歴

2023年11月～現在 ファストドクター株式会社(正社員)

【従業員数】200名

【担当部署】開発部

期間	主な職務内容
2024年9月～ 現在	<p>■プロジェクト内容 厚生労働省の健康保険資格証明APIを活用し、保険証の資格確認処理を自動化するマイクロサービスを開発。社内基幹システムとの連携により、医療事務業務の効率化を実現した。</p> <p>■言語/環境 フロントエンド - Vue2</p> <p>バックエンド - Ruby on Rails - NestJS</p> <p>その他 - Docker - GitHub Actions</p> <p>■組織/役割 【組織】</p>

	<p>部署30名 開発チーム4名</p> <p>【役割】 プロジェクトリーダー</p> <p>■実績</p> <p>マイクロサービスの新規開発において、イベントソーミングやスクラムなどのアジャイル開発手法を導入し、チーム全体の共通認識を醸成した。また、社内基幹システムとの連携においては、フィーチャーフラグを活用することで、段階的なリリースを実現し、リスクを最小化した。これらの取り組みにより、医療事務部門の月間約100時間の業務を自動化し、大幅な効率化に貢献した。</p> <p>■工夫した点</p> <p>若手エンジニアとペアを組み、より高品質なコードを書くための支援を行なった。同期的なコードレビューやペアプログラミングを通じて、リンターの設定、テストケースの作成、エラー処理の書き方などを一つ一つ丁寧に指導した。</p>
2023年11月～ 2024年8月	<p>■プロジェクト内容</p> <p>医療法人向けBtoBシステムの開発チームに参画。フロントエンドのリプレイスプロジェクトにより、基幹システムからの独立と事業部業務の効率化を実現。また、エンタープライズ顧客との契約獲得を目指し、顧客データと自社データを同期するバッチシステムの機能強化を行う。さらに、開発チームと事業部の連携強化のため、スクラム開発を導入し、両部門間の協働体制を構築した。</p> <p>■言語/環境</p> <p>フロントエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - Vue3 - React <p>バックエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - Ruby on Rails <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> - Docker - GitHub Actions <p>■組織/役割</p> <p>【組織】 部署60名 開発チーム7名</p> <p>【役割】 テックリード</p> <p>■実績</p> <p>基幹システムにテストコードの概念が未導入の環境下で、カバレッジ計測体制を構築し、ユニットテスト導入を段階的に進めた。業務委託メンバーが中心のチームにおいて、特にBtoBサービス開発の高品質化を目標に、ユニットテストの重要性を啓蒙し、テストコード記述の文化</p>

	<p>を醸成した。結果、チームが開発・保守するモジュールのカバレッジを80%まで向上させ、システム全体のテストカバレッジを25%から50%に引き上げた。これにより、デグレリスクの高いパッチシステムの機能強化を円滑に進めることで、エンタープライズ顧客との契約獲得に成功し、過去最大の月次経常収益(MRR)の伸びを達成し、さらに過去最小のチャーンレート(0.8%)を実現した。</p> <p>■工夫した点</p> <p>業務委託メンバー中心のチームにおいて、アジャイル開発を導入し、チームビルディングを牽引した。アジャイルコーチの力を借りながら、Working Agreement、インセプションデッキ、スクラムといった手法を積極的に導入することで、チームメンバー間の協力体制を強化し、コラボレーションによる問題解決を文化として根付かせた。これにより、プルリクエストの在庫待ち時間を50%以下に削減するなど、チームの生産性を大幅に向上した。</p>
--	--

2023年3月～10月 楽天グループ株式会社(正社員)

【従業員数】2万人

【担当部署】ライフメディア開発部

期間	主な職務内容
2023年3月～ 2023年10月	<p>■プロジェクト内容</p> <p>26年の歴史を持つ新卒採用関連のBtoC、BtoB向けWebサービスの開発を担当。基本設計からAPI作成、DB連携、工数出し、ページ作成、機能実装、テスト実装など、バックエンドからフロントエンドの業務まで全てを担当。オンプレ・プライベートクラウド環境にてJenkinsやGrafanaを用いた運用や障害調査を担当。またチーム外のコミュニケーションを要する業務は英語を用いて遂行。</p> <p>■言語/環境</p> <p>フロントエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - jQuery <p>バックエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - PHP - Phalcon - MySQL <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> - Docker - Bitbucket - Jenkins - Grafana <p>■組織/役割</p> <p>【組織】</p> <p>部署40名 開発チーム9名</p> <p>【役割】</p> <p>メンバー</p>

	<p>■実績</p> <p>26年の歴史を持つWebサービスを開発するにあたって以下のような課題点があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> - フレームワークが用いられていないコードがある。 - テストコードや静的解析ツールの不在。 - 詳細設計ドキュメント作成コストの肥大。 - 手動テスト実施による開発生産性の低下。 <p>そのような課題点がある中で、通常業務と並行しPHPUnitによるテストコードの実行基盤をフルスクラッチから整備しテストカバレッジを5%まで高めることで、詳細設計書とテスト項目書の作成コスト肥大化を抑制。また担当部署共通で利用を検討されていた静的解析ツールを用いてバグの発生確率を統計的に計測する仕組みをチームリーダーにデモすることで、導入の優先度を上げ運用に載せることができた。</p> <p>■工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none"> - 全社的な方針による制約からパブリッククラウドが利用できない状況下で、アジャイルな開発・運用スタイルが適用できる範囲を模索した。 - DevOpsが及ぼす生産性へのインパクトを定量的に説明し、ツールの導入を提案・実施した。
--	---

2016年11月～2023年2月 イタンジ株式会社（正社員）

【従業員数】200名

【担当部署】開発部

期間	主な職務内容
2022年5月～ 2023年2月	<p>■プロジェクト内容</p> <p>新規事業プロダクトの拡販計画に伴い、該当チームへ中途参画。不動産業界における賃貸契約の更新・退去を自動化するtoB/toC向けWebサービスの企画・開発・運用を担当。</p> <p>■言語/環境</p> <p>フロントエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - React - Next.js - TypeScript - Sass <p>バックエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - Ruby on Rails - MySQL <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> - Figma - AWS - CircleCI - Terraform <p>■組織/役割</p> <p>【組織】</p>

	<p>部署10名 開発チーム4名</p> <p>【役割】 メンバー</p> <p>■実績</p> <p>当プロダクトは、競合との差別化のため、ステルス状態で初期ユーザーと共にプロダクトマーケットフィット(PMF)の実現を目指していた。しかし、PMF後の大規模展開に向けて、フロントエンド、バックエンド、インフラといった技術領域におけるシニアエンジニアが不足していた。</p> <p>このような状況下でチームに参画し、以下の課題解決に取り組む。まず、MVP開発から1年間原因不明であった画像処理のバグを、OSSのソースコード解析により迅速に特定し、修正。次に、カスタマーサクセスチームと連携し、顧客からの要望を基に、UX/UIデザインチームと協力して新機能を開発・リリースした。さらに、これまでのSREやデータエンジニアとしての経験を活かし、データベースのスロークエリを徹底的に調査し、可視化、原因究明、および再発防止策を講じた。</p> <p>■工夫した点</p> <p>開発チームがリーダーと新卒2名の少人数体制であったため、開発リーダーを補佐する行動を心掛けた。具体的には、コードレビュー、リリース作業、運用における課題解決を積極的に行い、リーダーがプロジェクト管理や企画に集中できる環境を整備した。</p>
2021年6月～ 2022年5月	<p>■プロジェクト内容</p> <p>SREチームが片手間で運用していた、顧客データを自社に取り込むシステムの信頼性向上の需要高まりに応じ、専任チームの立ち上げとETLツールへのマイグレーションを実施。</p> <p>インターン4～5名含めた9名規模のETL開発部署のビジョン/ミッションを策定し、全社的に適用されたInput-KPIに沿ってOKR/KPI/ロードマップ/マイルストーンを規定。その上でスクラムを取り入れたチーム運営を実施。</p> <p>■言語/環境 バックエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - Ruby on Rails - Fluentd - Embulk - Digdag - Scrappy <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> - AWS - GCP - GitHub Actions - Zyte <p>■組織/役割</p> <p>【組織】 チーム9人</p> <p>【役割】 リーダー</p>

	<p>■実績 顧客データの取り込みに伴う複雑なデータ連携処理、新規顧客増加による処理の肥大化、および障害発生時の原因特定の困難さといった課題に対し、専任チームを立ち上げた。まず、既存のバッチシステムをTreasure Data社のOSSに移行し、日次600ワークフロー、6TBのデータ処理に対応するスケーラブルな環境を構築した。これにより、ログ確認、リトライ制御、モニタリングが容易になり、システムの安定性と運用効率を大幅に向上することに成功。さらに、カスタマーサクセス部門と連携し、顧客からの問い合わせに迅速に対応できるよう、社内のエスカレーションフローを最適化した。その結果、月間のエスカレーションチケット数を30件から15件に半減させることに成功。</p> <p>■工夫した点 顧客の新規獲得に必要なデータ連携設定を効率化するため、設定ファイルによる自動化を導入した。これにより、インターンメンバーでも容易に設定作業を行い、将来的にはWebアプリ化することで、ビジネス部門での運用も可能とする基盤を構築した。</p>
2017年4月～ 2021年6月	<p>■プロジェクト内容 入社5ヶ月後、システムの床下を管理していた開発メンバーの退職に伴い、社内の床下整備の役割に軸足が移った。SREという職責の元、クラウドの管理・運用やシステム監視の自動化・オンコール体制の構築を担当。</p> <p>■言語/環境</p> <p>バックエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - Ruby on Rails - MySQL - Scrapy <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> - AWS - CircleCI - Terraform - Ansible - Docker - New Relic - StatusCake - Opsgenie - Zyte <p>■組織/役割</p> <p>【組織】 開発チーム5~20名 SREチーム1~6名</p> <p>【役割】 リーダー</p> <p>■実績 自社システムを運用するにあたって、下記のような課題があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 障害対応が一部メンバーに偏ることによる運用ノウハウの偏り。 - クラウドの運用が手動で実施されていたことによるオペレーションミス。

	<p>- サーバーの中身を手動構築することによる、インフラ構築・運用ノウハウの喪失。</p> <p>そのような課題がある中で、ログ分析によるメトリクス策定、監視システム構築、および障害可視化により、システムの状態を可視化した。また、Infrastructure as Codeの全社導入、IaC変更レビュー体制の構築、および異常検知アラートシステムの導入により、クラウド環境の安定性を向上した。さらに、仮想マシン上のSSHサーバーやFTPサーバーを精査し、同様にコード化を推進した。この際、顧客向けFTPサーバーの移行では、20社以上の顧客に対する技術サポートを実施した。最後に、モノリシックなシステムをコンテナの単位で分割することで、システムの柔軟性と拡張性を向上した。</p> <p>■工夫した点</p> <p>インフラ管理業務への異動を機に、監視技術、コンテナ技術、IaCなど、新たな技術を積極的に習得。これらのスキルを3つの自社プロダクトに適用することで、入社当時の10社から700社を超える法人顧客が増加した環境下においても、安定したサービス提供と開発効率の向上を実現した。</p>
2016年11月～ 2017年3月	<p>■プロジェクト内容</p> <p>不動産業界における管理業者支援SaaSプロダクト開発を担当。新規機能の開発やプロトタイプング、テストの自動化の推進を担当。</p> <p>■言語/環境</p> <p>フロントエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - jQuery - React <p>バックエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - Ruby on Rails - MySQL <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> - CircleCI <p>■組織/役割</p> <p>【組織】</p> <p>開発チーム5名 担当プロダクト開発チーム2名</p> <p>【役割】</p> <p>メンバー</p> <p>■実績</p> <p>PMFに達するまでの探索的な開発によるコードの品質低下、デグレのリスクが課題としたため、テストコードの実行基盤をフルスクラッチで構築し、CIによるテスト自動化と静的解析を実施。また新規事業のSaaSプロダクトのプロトタイプングを行い、機能要件としてFAXIによるQRコード発行機能の技術検証、非機能要件として仮想DOMの技術検証を行った。</p>

2016年9月～2016年11月 株式会社ゴーリスト（正社員(試用期間)）

【従業員数】20名

【担当部署】メディア開発部

期間	主な職務内容
2016年9月～ 2016年11月	<p>■プロジェクト内容</p> <p>人材業界向けのメディアのエンハンス開発チームに配属。該当メディアと自社データ基盤を接続するためのPoCを担当。</p> <p>■言語/環境</p> <p>フロントエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - React - WordPress <p>バックエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - Ruby on Rails - MySQL <p>■組織/役割</p> <p>【組織】</p> <p>部署5名 開発2名</p> <p>【役割】</p> <p>メンバー</p> <p>■工夫した点</p> <p>自社のデータ基盤は高頻度で発生するアクセスには不向きなため、メディアサイトから直接アクセスすることを避け、中間にキャッシュ用のアプリを立てる方針でPoCを進めた。</p>

2015年1月～2016年8月 株式会社オイアクス（正社員）

【従業員数】5名

【担当部署】開発部

期間	主な職務内容
2015年1月～ 2016年8月	<p>■プロジェクト内容</p> <p>大規模な採用管理システム開発の開発引き継ぎ案件や、アニメーション制作の業務管理システムを2名チームによるスクラッチ開発、プログラミングセミナーの助手を担当。サイトマップ作成/ワイヤーフレーム作成/プロトタイピングから、機能実装/テスト実装を行う。</p> <p>■言語/環境</p> <p>フロントエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - jQuery <p>バックエンド</p> <ul style="list-style-type: none"> - Ruby on Rails - MySQL <p>■組織/役割</p> <p>【組織】</p> <p>部署5名</p>

	<p>開発5名</p> <p>【役割】 メンバー</p> <p>■工夫した点</p> <p>探索的な開発に耐えうるシステムの柔軟性を担保するため、テストコードの拡充を心掛けた。特にjQueryによるクライアント側の処理に厚みが出た際は、Mocha / Chai / Sinonを用いて自動テストを実施した。</p>
--	---

■保有資格

- Professional Scrum Master I
- TOEIC IP score 845

藤井健人

E-mail: kent.where.the.light.is@gmail.com
 LinkedIn: <https://www.linkedin.com/in/KentFujii>
 GitHub: <https://github.com/KentFujii>